

投稿

宇宙のかたすみで今をつむぐ

～今を残そうとすることは、見えない過去と未来を見つめること～

印南 明美（佐倉市立井野中学校教諭）

1. はじめに

最近、空を見上げている時間が長くなった。月の良い夜は、三日月だろうと下弦の月だろうと、いつまでも魅入ってしまう。『竹取物語』のような壮大な SF を生みしめた空はどんなに美しかったのだろうかと思いを馳せる。平安時代の月を見てみたいと、かなり真面目に思っている。

本稿は、中学校の国語の授業での実践をまとめたものである。平成 20 年 5 月 22 日。千葉県白井市文化センター・プラネタリウムで開催された、「学校・学級宇宙連詩ワークショップ」に参加し、宇宙連詩編纂の異議を知って賛同。JAXA と白井市文化センター・プラネタリウムの協力を得て進めた実践である。

佐倉市立井野中学校には平成 22 年 4 月に着任し、現在担任する 1 年生の学級で同実践を行っている。けれども連詩は未完成であるため、本稿では、前任校である印西市立原山中学校第 2 学年での実践を綴った。

国語教育と天文教育の結びつきという点で、新たな試みであったと言える。そして実践を通して双方の立場における教育効果を感じている。さらには、教科に関してだけでなく、生徒指導上も高い成果を上げることができる取り組みだと考察した。

2. 宇宙連詩編纂の方法

詩の編纂については、国語の授業の前提学習として時間を確保した。つまり、国語学習の一環として取り組み、詩を鑑賞する技能、詩の味わい方、そして詩作の方法を指導した。資料の一つとして、大岡 信先生の書き下ろし文章も活用した。また、自分自身や自分の

身の回りのことを書くことを目的とし、そのための表現手段を「詩」とするのだということを知らせた。

第 1 詩

われら星の子 宇宙の子
海に生まれ大地に育ってきた私たちの体には
はるか百数十億年の
宇宙の歴史が刻まれている
ほら今日もどこかで小さな光が
山崎 直子さん（宇宙飛行士）

第 2 詩

知りたいのははじまりの瞬間 その音その色
匂いと手ざわり
はじまりは いつもこころをひきつけてやまない
日本語ひらがな五十音は なぜ あ い という
二文字からはじまるのだろう
覚 和歌子さん（詩人）

第 3 詩

メロディーが流れる
今ある意味を探るとき
逢いたい人を想うとき
初めて口ずさんだ歌は忘れたけれど
生まれる前から覚えているこの旋律

印南 明美（国語科教諭）

以上、第 1～3 詩に続く詩を連ねて行く。2 学年 3 学級にて取り組み、3 編の連詩を創作した。

第 4 詩と最終詩は全員に創作させ、国語の時間の相互評価によって、言葉を選んだり、

表現に工夫をさせたりして、全体で吟味してまとめた。

第5詩以降は、意欲的な立候補によってつないでいった。実際の詩作は、空を見上げてから、家庭にて行わせた。国語の時間の前提学習として取り組み、発表させ、前の詩とのつながりやかかわりについて確認させた。発表の後、全体で言葉を磨いていく学習をした。できた詩は廊下掲示(図1)して学年全体で認め合い、意欲を喚起させた。



図1 宇宙連詩

(以下、生徒への配布プリント)

【宇宙連詩づくりのルール】

1. 宇宙連詩は、5行詩と3行詩の繰り返しから構成します。字数の限定はありません。
2. 直前の詩の中から、ある言葉、または、ある1行を引用して、自作の出発点にしてください。引用は、直前の詩の中の言葉、行を、そのまま引用しても良いですし、直前の詩の中の言葉、行のアイデアを踏襲し、別の言葉にしても良いです。
3. 連詩をつくるときは、以下を心がけましょう。
 - *前の詩からポンと飛ぶこと
 - *次の人が続けられること(完結しないこと)
 - *具体的であること(抽象的でないこと)
 - *必ず、空を見上げてから創作に入りましょう。星空でなくても、朝でも、曇りでも、雨でもかまいません。
4. 第4詩とラストの詩は、クラス全員が書きます。その中から1点を選んで構いませんし、全員で推敲して一つの詩を仕上げてもかまいません。
5. 学級で自分の詩を発表するとき、更に良くするために友だちの意見を聞きましょう。参考になることがあれば、詩を推敲してかまいません。

完成した連詩の全編は、次のWebサイトで確認することができる。

<http://www7.jsforum.or.jp/school.html>

3. 完成した連詩を残すために

詩の編纂の方法として、一人一詩必ず作らせた。したがって、連詩を完成するために、一人一人の責任は重大であった。結果、98名による3編の連詩ができあがった。だが、せっかく完成した詩のすべてを暗唱することは難しい。けれどもこの素晴らし連詩、素直な心と言葉の集まりを忘れたくはない。そこで、できあがった連詩をベースにして楽曲として残す方法を考えた。

98名の詩を歌詞にまとめる作業は、中学生には難しかったので指導者が行った。作曲と2部合唱への編曲は依頼した。以下がその楽曲『この宇宙に』の歌詞である。

この宇宙(そら)に

平成20年度 印西市立原山中学校2学年 宇宙連詩より
作曲 前田 雅仁(千葉県在住 ギタリスト、作曲家)

さあ また朝がやってきた
眠い目こすり 開くカーテン
ふと見上げるとどこまでも 続く 青いこの空
いいなあ 羽ばたく鳥たちは
きっと悩みはないだろうな
道に咲く小さな花も 朝陽にきらめいてる
考えもしなかった (言葉を投げたよ)

空が青いそのわけ（君が受けとめた）
 気づきもしなかった 仲間と出会えたそのわけ
 あたたかい空 つめたい宇宙
 知ってる空 知らない宇宙
 想いはあふれる
 この宇宙に

ただがむしゃらに走って
 ボール追いかけて 夢を追いかけて
 流した汗と同じだけ 涙流す日もある
 すてきなピアノ弾けたなら
 きっとみんなが幸せになる
 夜空に咲く大きな花 また君と見に来よう
 見慣れない教室の（言葉を投げたよ）
 張りつめたざわめき（君が受けとめた）
 親友ができた日 すべてが輝いていた日々
 あたたかい空 つめたい宇宙
 知ってる空 知らない宇宙
 想いはあふれる
 この宇宙に

時に 幼いあの頃に
 戻りたくなることがあるのさ
 でも昔のわたしにだけは 決して負けたくはない
 目の前のハードル越えよう
 きっと見えるさ虹の架け橋
 ここに咲く小さなわたし 今日走り続ける
 時間は止まらないさ（言葉を投げたよ）
 だから精一杯（君が受けとめた）
 未来に向かって行け わたしがわたしであるため
 あたたかい空 つめたい宇宙
 知ってる空 知らない宇宙
 あたたかい空 つめたい宇宙
 知ってる空 知らない宇宙
 想いはあふれる
 この宇宙に

楽曲『この宇宙に』は、3年生に進級した生徒たちが、「原山中学校創立20周年記念式典」において、連詩の一部朗読、群読と一緒に合唱して発表した。伴奏も生徒たち自身がアレンジしてバンドにて行った。

4. 宇宙連詩の編集を終えて

感想1（2学年女子）

宇宙連詩に取り組んで、世界を広く見ることができた。今までそんなに気にしていなかったことや、考えたこともなかったようなことが、連詩を作ることでたくさんのことを考えるきっかけとなった。うまくまとまらなかったり、言葉が見つからなかったり、大変なこともあったけれど、終わった後にはすごく達成感があったので、やって良かった。

感想2（2学年男子）

一つの詩から、それにどんどん関連していく詩がたくさんできてすごいなと思った。そしてその中にみんなの気持ちなどが入っているのでおもしろいなと思った。

感想3（2学年女子）

なにげなく住んでいる地球には、人と人との出会いや変わってゆく景色、たくさんの変化があるんだなあと思った。今、関わっている多くの人とも、偶然が重なり合ったから出逢うことができたのだと思う。宇宙の小さな星が人によって変わったのなら、宇宙にも感謝だなあと思います。

感想4（2学年女子）

今まで宇宙について考えたことがなかった。だけど今は宇宙について興味を持った。どうして宇宙は無限なのかとか、地球などが生まれたのか、など。宇宙について知らないことがいっぱいあった。だから私は、これからの人生の中で、その知らないことを一つでも多く知ることができたら、と思った。

感想 5 (2 学年女子)

最初に宇宙連詩の話聞いた時は、大規模な物だなあとビックリしたのと同時にちょっと不安がありました。でも、前の人から詩を受け継ぐときは、言葉がすんなり浮かんできたので自分らしい詩を書くことができました。一人一人の詩では、みんなの個性が出ていたし、最後の詩を作るときは、みんなで話し合ってみんなで作っている感じがしてとても楽しかったです。連詩が宇宙に行くのが楽しみです。

感想 6 (2 学年女子)

それぞれに書く内容が違って、その人が今一番大切にしているものがわかったような気がする。詩を書くことが少し楽しくなった。みんな、今を精一杯生きていることがわかる。今を失いたくないと強く思う。

感想 7 (2 学年女子)

今、みんながどんなふうにいるのか、よくわかりました。14 歳ってというのは、一生に一度しかなくて、今しかできないことがあって、それを詩にすることが、今生きている証拠なんだなって思いました。

完成した連詩 3 編は、DVD ディスクに収録され、平成 22 年 3 月、地球を離れて無事に宇宙ステーション「きぼう」に届けられ、宇宙飛行士 野口総一氏によって保管された。

5. おわりに

当たり前のように過ぎてゆく時間、平凡な毎日。普段気にも止めないような小さなできごと。それら自体が「宇宙で生きているということ」なのだという認識の転換が、この宇宙連詩編纂のスタートであり、ゴールなのだということをこの取り組みを終えて感じている。

「宇宙に目を向けること」とは、想像にも及ばないような世界と、今目の前にある自分の生活、その両方を見つめることなのだというところを、子どもたちに知らせることができた。連詩を編纂する中で繰り返し語ってきたということもあるが、子どもたちがそのことを実感できたのは、白井市プラネタリウムのご協力によるところが大きい。「星が爆発したから自分が居るのだ」ということを知り、星に対する感謝にも似た気持ちが子どもたちの心の中に生まれたことを、子どもたちの感想から読み取った。

編纂を終え、子どもたちの感想やアンケートを集計していて、予想外の好結果に驚いた。連詩をつくることは「楽しかった」と半数以上の生徒が応えている。そして、「またやりたい」という生徒は 3 分の 2 以上だった。

自分の気持ちを見つめ直せること、友だちの考えを知ることができることは、子どもたちにとっても予想外の楽しみだったようである。そして、クラスのみならず一つのことを成し遂げる達成感を味わうことができたようである。集団の中の自分の存在も確かめることができた。まさに、「協働」の成せるたまものであると言ってよい。

また、「国語の学習」という視点からも大きな成果があった。

移行期間に入った新指導要領では、どの教科、領域についても、「表現力の重視」がうたわれている。従って、国語の授業における表現力を高めるための指導には、確かな成果が求められている。今回の取り組みによって、詩を書くことや国語の授業そのものが楽しくなったという感想を得ることができた。書く目的、手だてをはっきりさせ、伝えたい相手を明確にすれば、書くことは楽しいことなのだということを指導することができる。またそれは、表現力の向上につなげてゆくことが

できると、宇宙連詩への取り組みによって私自身が学ぶことができた。

編集を進めて行く中で、見えないゴールが徐々に一人一人の心の中に現れて、同じ方向に向かって走っているのだという実感がわいてきた。そして、子どもたちのつむいだ言葉の一つ一つが感動となって、詩を読む者の胸を熱くする。その瞬間、宇宙のかたすみで生きている今が、とても愛おしく思える。今回、この取り組みに参加する機会を与えていただいたことに、深く感謝している。

印南明美

コラム：日の出の最も遅い時期

大西浩次（長野工業高等専門学校）

1月も下旬になると日の長さが感じられるようになって来ました。しかし、早朝の日の出の時間は相変わらず遅いですね。ところで、日の出の時刻が最も遅い時期が、冬至ではないことに気づいていましたか。確かに、冬至は1年で最も昼間の時間の短い日です。昨年12月22日です。しかし、冬至を過ぎても日の出が遅くなっています。図は、日の出、日の入りの時刻のグラフです。これを見ると、日の出が最も遅くなる時期は1月上旬です。冬休み明けの朝の通学や通勤の時間に、日の出を見るのは、ちょうど1年で最も日の出の遅い時期だからです。一方、日の入りの最も速いのは12月上旬です。

でも、なぜ、冬至の頃が最も早い日の入りや最も遅い日の出ではないのでしょうか。それは、地球の地軸が傾いていること（メイン）や地球の公転軌道が楕円であることなどが原因です。この冬は、日の入りや日の出の様子に注目してみませんか？

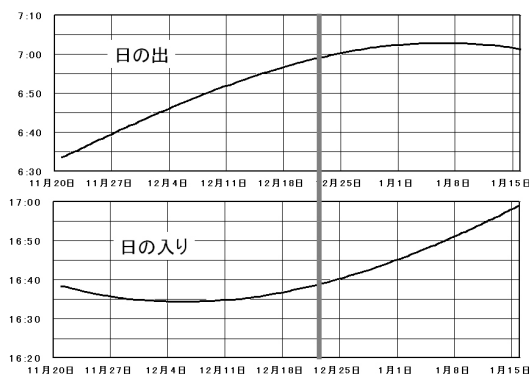


図1 長野市での日の出、日の入りの時刻のグラフ

図中の縦棒は、冬至の12月22日で、最も昼の短い（夜の長い）日である。